

# 連合会だより 72号

226 団体

89,275 世帯

町田市原町田 4-9-8

042-722-4262

発行人 安達 廣美

## 2017 年度会長研修会が行われました

町田市町内会・自治会連合会〔市連〕では、年に 1 回各地区の会長などに呼びかけて研修を行っています。2017 年度は、市連の重点事業として、災害時の避難施設開設をテーマとして「防災部会」を立ち上げ、「開設マニュアル」の作成を行っているところです。

当該事業関連の地区防災計画、避難所運営マニュアルなどで、参考になりそうな地域を検討した結果、静岡県富士市の活動に注目して、特に、「富士駅南地区まちづくり協議会」の防災部会に学ぼうと、市民協働推進課にも仲に入っていただいて、市連の会長などに呼びかけて、今年度の会長研修会を実施しました。



2017 年 9 月 19 日〔火〕2 台のバスに分乗した 10 地区の会長等 69 名で、富士市役所講堂に集まり、富士市地域防災指導員会の高澤会長から、お話を伺いました。

1979 年頃自主防災会が発足して以来、訓練と改良を積み重ねて、当該地区の実状にあった、運営体系＋方式が出来、駅南地区では約 100 名の役員構成となっているそうです。小学校での防災教育にも力を入れ、DIG (Disaster Imagination Game) を開発して、学校から家庭へと広げているとのことでした。最近では、会場型防災訓練からイベント型に転換を図っているそうです。



それらの伝統を生かして作られた資料が配付されましたが、各家庭に備える「保存版」となる「防災マップ」は 50 ページ近いしっかりしたものと、各避難所に備え、状況の変化に対応できる「運営マニュアル」は、富士山に近く、南海トラフや東海大地震も意識すべき地理的状況には違いがあるものの、例えば「総務、避難者管理、情報、食料物資、施設管理、保健衛生、要配慮者支援」などの班編成は、それ自体も貴重な参考になりました。

これらの話題提供を受けて、活発な質疑応答があり、今後、市連～各自治会へとマニュアル作りを進めるに当たって刺激が得られた研修となりました。

〔編集委員： 松香光夫〕

市連のホームページをご覧ください。

URL : <http://machida-shiren.com/> にて、町田市町内会・自治会連合会や、各地区連合会の活動を見ることが出来ます。また、「連合会だより」のバックナンバーも掲載されています。



# 「敬老の日のお祝い&子ども達の夢を応援するプロジェクト」 開催までの奮闘記

今年3月7日、青少年健全育成忠生第六地区委員会(以下育成会)が開かれ、私は平成29年度の新会長に選ばれました。そして9月17日、育成会と境川団地自治会(以下自治会)との共催による初めてのイベントを開催しました。計画から開催日までの間、不安を抱きながらもスタッフと共に充実した時間を共有し、成功裡に終わった経過をお伝えします。

育成会は木曾上宿町内会、木曾南自治会、中里橋自治会そして境川団地自治会の4団体と、木曾境川小学校、木曾中学校、町田総合高校さらに地域の幼稚園保育園等に係る人たちが構成された委員会です。地域住民との交流をはかり、良好な環境を作りながら子供たちを支えていくことを目的とする組織です。私自身は2年前、境川団地自治会長に就任し、ようやく会長職に慣れてきたところで更に育成会の会長も受けることになるとは、夢想だにしていませんでした。



木曾中学校吹奏楽部

自治会運営を通じて組織の高齢化や、若い人たちの参加意識の希薄な状況に悩んでいた私は「育成会と交流することで、自治会に若い人たちの参加を促し、高齢化した自治会が活性化出来たら」とささやかな期待を持って引き受けることにしました。

自治会の年間行事として毎年9月の敬老の日には、75歳以上の方に五百円のお米券を配布していました。しかし、マンネリ化していた事と、会員数の減少に反比例して対象者(高齢者)の増加は自治会財政に大きな負担となっていました。そこで、お米券の代わりに木曾中学校の吹奏楽部の演奏で、お年寄りの方々に楽しんでいただくことにしようと考えました。会場は団地の中心部にある教育センター体育館に決めました。木曾中の吹奏楽部は東京都中学校吹奏楽コンクール3年連続の金賞に輝いた吹奏楽部です。早速、顧問の田向先生に連絡をすると「喜んで行かせていただきます」と快諾していただき、9月17日〔日〕に演奏会開催が決定しました。同時に自治会定例会での了承を得ました。

育成会総会を前にして5月1日の役員会でこの話をしたところ、役員の中から「吹奏楽の他に、子供たちのパフォ

ーマンスの発表の場にしたらどうか?」というアイデアが出て、全員の賛成で総会に諮ることになりました。



チアダンスグループ

5月16日の総会で9月17日のイベントの開催が承認されましたが、その時点では「木曾中吹奏楽公演+α」というタイトルで、具体案は決まっておらず、役員の「やる気」と「出来るだろう」の期待のみが先行していました。その後は「出演者が集まるのか?」「お客さんが来てくれるのか?」など不安な気持ちが開催当日まで続くこととなりました。

6月の2回の役員会では、ポスター、当日用のプログラム、舞台上の看板、演目めぐり等の作成の役割分担など、細部にわたって打ち合わせを行いました。また意思疎通を計るため自治会と育成会の役員との合同会議も2回行いました。夏休みが始まる前に出演者を決めたいと6月19日、出演者募集を開始しました。7月10日募集締め切り、7月31日出演者決定、8月1日出演者に通知、と計画を立てましたが、7月10日を過ぎても、担当者からは「まだ、2組しか申し込みがありません」という返事でした。

果たして観客の方々にお見せできるイベントが成立するのかわからない不安は募るばかりです。その後、各方面に呼びかけを続けました。その結果8月になってバラエティに富んだ7組の出演者が決まりました。小学生のヒップホップダンス、中学生の手話、高校生の殺陣など、出演者数はなんと105名になっていました。

最終的に決まったタイトルは「敬老の日のお祝い&子ども達の夢を応援するプロジェクト」でした。当日は雨天にもかかわらず、出演者を含む総勢300名が来場して頂き、大きな拍手に包まれながら終了することが出来ました。5月16日の総会からこのイベントのために開かれた会合は11回。延べ数十時間に亘る打ち合わせを行いました。自治会と育成会のエネルギーが集結し、成功に至ったと思います。また、お年寄りから子供たちまで多くの方々から「楽しかった」のお言葉をいただき大きな目標を達成できたと思っています。